

## 地域再生とまちづくり

各都市が目指すものは

<第35回>

段の変化はない。  
栃木県が公表した16年地価  
調査結果では、中央通り沿い  
の調査地点（大田原△県▽5  
-2）の変動率は引き続き下  
落となつた。

車の通行量が増加  
するなど一定の効  
果がみられた。  
しかしながら中  
心市街地を取り巻  
く環境は依然とし  
て厳しく、市は16  
年に「中心市街地  
総合再生基本計  
画」を策定してい  
る。「わかももの・  
子育て世代を惹き  
つけるまちづくり」を目標に、定  
住人口・交流人口  
の増加にぎわい  
の形成に向けて、  
「環境づくり」

### 県北地域の中心地

大田原市は栃木県北東部に位置する人口約7・5万人の都市である。かつては大田原氏の城下町として、また、旧奥州街道の宿場町として発展し、物資の集散基地として発展してきた。

中心市街地はメーン通りで、近年は交通機関の発達や生

活様式の変化により、商業施設の減少、人口減少で空洞化が進み、空き地などが増加している。その一方、周辺幹線道路沿いへのロードサイド型店舗の出店意欲は旺盛で、新規の宅地開発も郊外部に集中している。また、周辺幹線通り、お城山通りなどに昔ながらの各種小規模店舗が集積するほか、県庁出先機関、裁判所支部などの公共施設が

### 栃木県大田原市・中心市街地の活性化を推進

「魅力づくり」「プロモーション」に基づく各施策の検討と、そのための「空き地・空き家・空き店舗」の有効活用を掲げた。

既に「中心市街地にぎわい創出事業補助金」を活用したNPO法人による各種イベントなどのソフト事業が動き出しており、今後、具体的な計画づくりと検討支援を目的に「市街地総合再生計画」の策定を視野に入れている。

近隣では、今年8月の着工を目指して市役所新庁舎の建設計画も進ちょく中であり、今後も大田原市中心市街地の動向を注視したい。

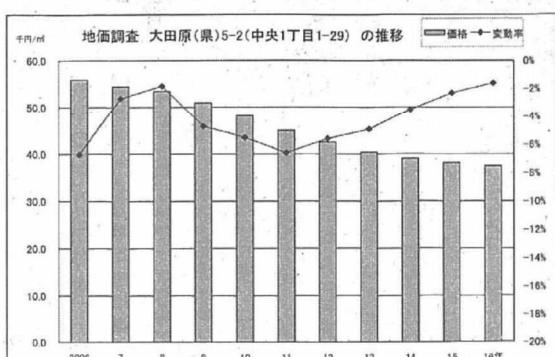


08年の活性化基本計画で整備された再開発ビル「トコトコ大田原」(右手)。左はあらまち蔵屋敷

## 16年に増強計画策定 にぎわい創出 補助も



交差点に整備された金燈籠ポケットパーク



(日本不動産研究所宇都宮支  
所、不動産鑑定士・永井正義)